

令和6年度センター活動報告

1. センター事業運営

(1) 特別支援教育実践研究センター運営委員会

第1回特別支援教育実践研究センター運営委員会を令和6年4月30日（火）～書面審議で開催し、令和5年度特別支援教育実践研究センターの運営状況に関する自己点検・評価について協議した。次に、第2回同委員会を令和6年8月9日（金）～書面審議で開催し、令和6年度事業計画及び予算計画、令和6年度紀要編集委員の選出及び編集幹事の委嘱について協議し、上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要編集規程の改正、令和5年度事業報告及び決算について報告を行った。さらに、第3回同委員会を令和7年3月上旬に開催し、令和7年度支出予算要求・要望額について協議し、特別支援教育実践研究会第13回実践研究発表会、第106回センターセミナー、第107回センターセミナー、第108回センターセミナーについて報告を行った。

〈令和6年度特別支援教育実践研究センター運営委員会委員名簿〉
八島 猛* 大学院学校教育研究科教授
特別支援教育実践研究センター長（委員長）
笠原芳隆* 大学院学校教育研究科教授
河合 康* 大学院学校教育研究科教授
佐藤将朗* 大学院学校教育研究科教授
小林優子* 大学院学校教育研究科准教授
大庭重治* 大学院学校教育研究科特任教授
宮下敏恵 大学院学校教育研究科教授
心理教育相談センター長
*特別支援教育実践研究センター兼務教員

(2) 特別支援教育実践研究センター紀要編集委員会

第1回特別支援教育実践研究センター紀要編集委員会を令和6年6月14日（金）に開催し、上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第31巻の編集方針について協議を行った。特別論文1件、論文3件、資料2件の投稿があった。

〈令和6年度特別支援教育実践研究センター紀要編集委員会委員〉
八島猛（編集委員長）、佐藤将朗（編集幹事）、笠原芳隆、小林優子

(3) 特別支援教育実践研究センター会議

計23回開催し、将来構想、予算要求、センターセミナー実施要項、施設・設備の改善改修等に関して協議を行った。

(4) 広報活動

センターの活動内容をインターネットで公開し、随時、更新した。 URL：http://www.juen.ac.jp/handic/

2. 臨床活動

(1) 教育相談の実施

地域の障害のある子どもの教育的支援を目的として、子どもや保護者、学校等の担当者を対象に教育相談を実施した。教育相談においては、面接相談に加えて、視覚、聴覚、認知、運動、言語、コミュニケーション等の検査による総合的な教育的評価、評価に基づく継続指導及び経過観察を行った。また、教育・医療・福祉等の関係機関への紹介や連絡調整も行った。さらに、附属学校園との連携を図り、在籍する幼児・児童・生徒の保護者及び担当教員等への相談業務を推進した。

(2) 教育相談実績

令和6年4月から令和7年3月までの教育相談実績は、以下の通りである。なお、教育相談実績には、大学院授業科目として実施した教育相談、センター兼務教員及び大学院生が研究を目的として実施した教育相談、センター兼務教員が授業や研究とは別に実施した教育相談が含まれている。

1) 年間相談件数

表Aに障害種別の相談件数を示した。なお、合計相談件数について、令和4年度は36件、令和5年度は43件であった。

2) 年間相談・指導回数

表Bに相談・指導の内容別の延べ指導回数を示した。なお、延べ指導回数について、令和4年度は428回、令和5年度は84回であった。

3) 年間相談・指導時間

表Cに相談・指導の内容別の延べ指導時間を示した。なお、延べ指導時間数について、令和4年度は699.5時間、令和5年度は118時間であった。

表A 年間相談件数

障害種別	新規相談	継続相談	計
肢体不自由・重症心身	0	0	0
知的障害・ダウン症	0	0	0
聴覚障害	7	11	18
言語障害	0	0	0
自閉症・情緒障害	0	0	0
発達障害	2	7	9
視覚障害	1	0	1
病弱	1	0	1
その他	1	0	1
合 計	12	18	30

新規相談…今年度より新しく教育相談を行ったもの
継続相談…前年度より引き続き教育相談を行ったもの

表B 年間相談・指導回数（延べ指導回数）

指導内容	新規相談	継続相談	計
初期相談（検査）	4	0	4
定期相談（検査）	21	23	44
継続指導	0	42	42
合 計	25	65	90

初期相談…初回相談（検査）のみ行ったもの
定期相談…数ヶ月に1回教育相談（検査）を行ったもの
継続指導…月1回以上継続して教育相談を行ったもの

表C 年間相談・指導時間（延べ指導時間）

指導内容	新規相談	継続相談	計
初期相談（検査）	6.0	0.0	6.0
定期相談（検査）	37.0	33.0	70.0
継続指導	0.0	42.0	42.0
合 計	43.0	75.0	118.0

3. 教育活動

(1) 教育臨床実習の実施

上越教育大学大学院発達支援教育実践研究コース特別支援教育領域では、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、の5領域に関して「学校支援フィールドワーク」の授業科目を設けている。これらの授業科目は、前掲の教育相談と関連づけて各学校で実施されたが、アセスメントの一部を特別支援教育実践研究センターと連携して実施することもあった。学校支援フィールドワークでは、障害のある子どもの心理アセスメント及び教育プログラムの作成・実施・評価に関する理論と技術の指導を行っている。また、学校支援フィールドワーク後にカンファレンスを実施し、映像記録等を用いた臨床実践場面の分析やコンピュータによるデータの処理・管理についても指導を行っている。さらに、言語支援機器や視覚教材、コンピュータを用いた指導法についても指導を行っている。

(2) 講義・演習の実施

センター研修室において、大学院授業科目の講義を実施した（「知的障害教育課程・指導法」、「肢体不自由心理・生理学論」、「発達障害・情緒障害教育総論」、「聴覚障害心理・指導法特論」等）。また、「実践場面分析演習：特別支援教育」では、地域の特別支援学校の協力のもと、児童・生徒の実態把握や授業実践の実施、授業分析等を行うが、映像記録等を用いた臨床実践場面の分析やコンピュータによるデータの処理・管理にセンターを活用した。

4. 研究活動

(1) 研究プロジェクト

センター兼務教員が遂行した研究プロジェクトは、以下の通りである。

1) 科学研究費採択事業

- ・基盤研究（B）：人工内耳装用児の学校適応を促進する教育的

支援モデルの構築（分担者：小林優子）

- ・基盤研究（C）：聴覚障害幼児の聴能発達を支える支援マニュアルの作成：実践と研究の統合的分析から（分担者：小林優子）
- 2) 学内研究プロジェクト
 - ・学習面に困難を有する児童のワーキングメモリの特性に応じた支援方法の検証（研究代表者：小林優子）
- 3) 連合研究科共同研究プロジェクト
 - ・多様性を尊重する社会の確立を目指した遺伝学リテラシーからの教育実践研究（研究分担者：小林優子）

(2) センター紀要

障害のある子どもの教育実践に関する総合的な研究成果について、上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第31巻において発表した（令和7年3月刊行）。また、本巻に掲載された論文の電子ファイルを本センターホームページ及び上越教育大学リポジトリに公開した。

(3) 特別支援教育実践研究会

特別支援教育に関する情報の共有と発信を図ることを目的として、地域の連携基盤に加え、修了生により全国的規模で組織される同窓会の協力を基に特別支援教育実践研究会を平成24年度に設立した。令和5年度は協働研究員37名（新潟県内特別支援学校関係者13名、新潟県内公立小学校教員4名、大学教員4名、他県特別支援学校・公立小学校教員14名、その他2名）が登録された。また、会員が教育課程編成や学校現場・センター等における指導実践とその成果等を発表することを目的とし、令和7年2月4日（火）に特別支援教育実践研究センターにおいて第12回実践研究発表会を開催した。32件の発表があり、58名（協働研究員1名、本学院生・教員等57名）が参加し、地域における情報交換・情報提供がなされた。

5. 研修活動

(1) センターセミナー

特別支援教育において指導的立場にある現職教員、実践者、研究者、福祉関係施設の指導者を講師として招きセンターセミナーを実施している。センターセミナーは、地域の特別支援教育関係者への専門的知識や内外の最新情報の普及・啓発による地域貢献的役割の他に、大学院生・学生に対し、大学院のカリキュラムを超えた幅広い知識や情報の獲得を目的としている。

今年度開催されたセンターセミナーは以下の通りである。

1) 第106回センターセミナー

日 時 令和6年10月20日（日） 13時30分～15時30分
対面およびオンライン開催

講演者 永田 俊光 氏（新潟地方気象台 地域防災官）

テーマ 災害から誰一人取り残さない防災教育－特別支援学校の実践事例から学ぶ－

参加者 67名

2) 第107回センターセミナー

日 時 令和6年11月2日（土） 10時00分～12時00分
オンライン開催

講演者 河村 暁 氏（福岡教育大学 准教授）
テーマ ワーキングメモリと学習支援－読み書き算数や読解
困難のある子どもへの支援－
参加者 111名

3) 第108回センターセミナー

日 時 令和6年12月21日（土） 10時00分～12時00分
オンライン開催
講演者 小林 宏明 氏（金沢大学 教授）
テーマ 吃音のある児童・生徒の包括的な理解と支援
参加者 89名

(2) その他の各種研究会・講習会

センターを会場に開催されたその他の研究会・講習会等は、
以下の通りである。

- ・青年の余暇・学習会（ナディアの会）
- ・上越動作法学習会

6. 地域支援・連携活動

(1) 地域支援・連携活動の実施内容

センター兼務教員が実施した地域支援・連携活動は、以下の
通りである。

1) 地域貢献事業（大学プロジェクト）

- ・上越地域難聴幼児支援事業（代表者：小林優子）

2) その他

- ・新潟県教育職員免許法認定講習講師
- ・新潟県立新潟盲学校評議員
- ・新潟県立高田特別支援学校評議員
- ・新潟県立上越特別支援学校評議員
- ・新潟県立はまなす特別支援学校評議員
- ・新潟県立柏崎特別支援学校評議員
- ・新潟県初任者研修講師
- ・新潟県12年研修講師
- ・新潟県内特別支援学校教職員研修会講師
- ・新潟県内特別支援学級教職員研修会講師
- ・新潟県新任特別支援学級担任教員研修講師
- ・新潟県通級指導等研修（難聴）研修会講師
- ・新潟県特別支援教育研究会肢体不自由・病弱部会研修会講師
- ・上越市障害者差別解消支援地域協議会委員長
- ・上越特別支援教育研究会顧問・講師
- ・上越市就学支援委員会委員
- ・上越市こども発達支援センター講師
- ・上越市教育センター研修会講師
- ・上越市未就学児サポート事業講師
- ・上越市教育委員会「難聴児の支援研修会」講師
- ・妙高市障害児通園事業「ひばり園」職員研修講師
- ・妙高市就学指導委員会委員
- ・柏崎市教育センター研修会講師
- ・柏崎特別支援学校ICT準備委員会講師
- ・糸魚川市「気になる子の療育研修会」「5歳児発達相談会」講
師
- ・新潟県立長岡聾学校「耳やきこえに関する理解研修会」講師

- ・富山県立視覚総合支援学校校内研修会講師
- ・高岡市立こまどり支援学校校内研修会講師
- ・長野県長野盲学校校内研修会講師
- ・富山県教育職員免許法認定講習講師
- ・石川県教育職員免許法認定講習講師
- ・長野県教育職員免許法認定講習講師
- ・山梨県教育職員免許法認定講習講師
- ・埼玉県教育職員免許法認定講習講師
- ・埼玉県特別支援教育研究協議会助言者
- ・鳥取県教育委員会認定講習講師
- ・新潟県立長岡聾学校との連携による「きこえ相談」
- ・青年の休日を楽しむ会（ナディアの会）発起人・事務局
- ・健康に特別な支援を必要とする子どもたちのための発達支援
教室「ふれあい教室」主催
- ・上越動作法学習会スーパーバイザー

(2) その他

地域の特別支援学校など外部機関に対し、センターが所有す
る検査用具の貸出を随時行った。

特別支援教育実践研究センター 佐藤将朗